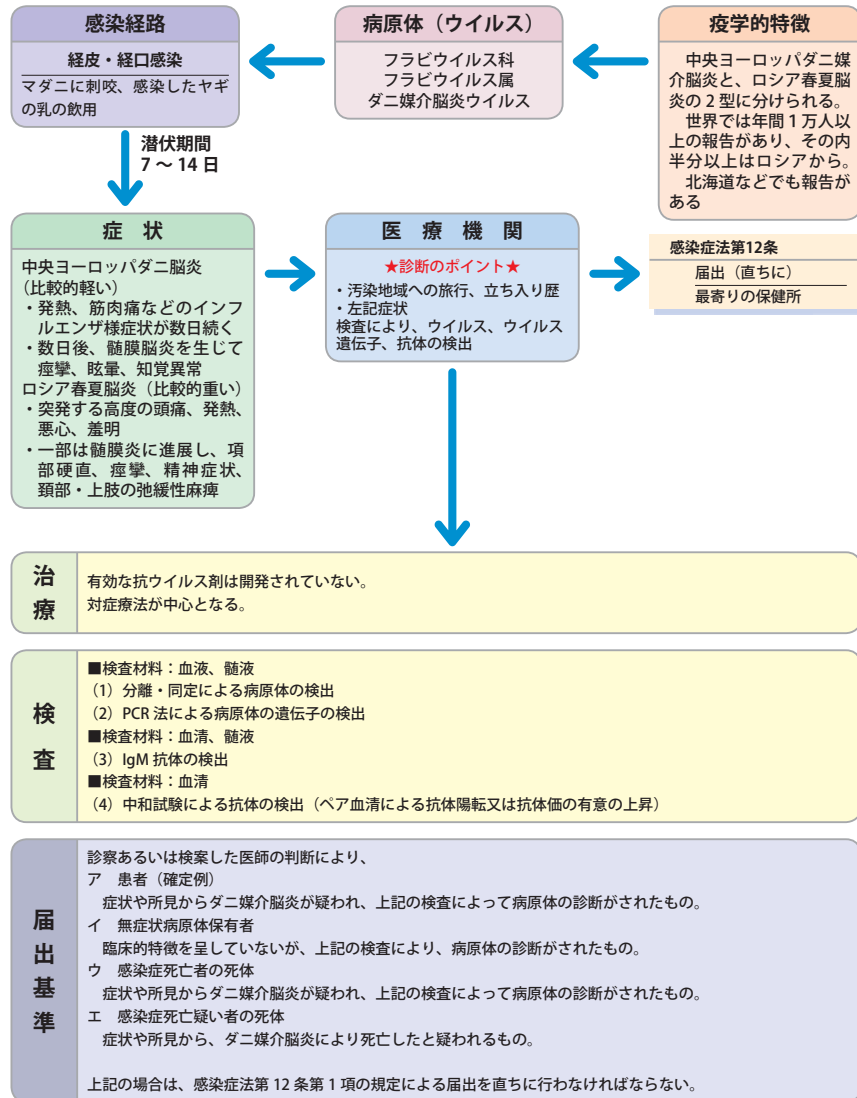


## (18) ダニ媒介脳炎 ………四類感染症

## Tick-borne encephalitis : TBE



## 参考図書

- (1) ダニ媒介脳炎に関するQ & A 厚生労働省 (平成29年7月11日更新)  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/mito\\_encephalitis.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/mito_encephalitis.html)
- (2) Special Pathogens Branch : Tick-borne Encephalitis, CDC  
<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/arbor/arbdet.htm>
- (3) 動物由来感染症 真興交易医書出版部 p98-100
- (4) 高島郁夫 ダニ媒介性感染症 モダンメディア 201359 巻 9号

## 発生状況

ロシア北方～極東の森林地帯やシベリアなどで主にロシア春夏脳炎が報告され、ヨーロッパ諸国で主に中央ヨーロッパダニ脳炎が報告されている。両者はほぼ同じウイルスによるものであるが、サブタイプがやや異なり症状も異なる。

世界では年間に6000人前後の報告がある。また、本邦でも1993年、2016年、2017年に北海道で1例ずつ報告がある。

## 臨床症状

中央ヨーロッパ型では発熱、筋肉痛などのインフルエンザ様症状が出現し2～4日続く。症例の20～30%はその後数日経って第Ⅱ期に入る。第Ⅱ期は髄膜炎を生じて痙攣、眩暈、知覚異常などを呈する。致死率は1～2%で5%を超えることはないが、神経学的後遺症が10～20%あるいはそれ以上と報告されている。

ロシア春夏脳炎では、突然に高度の頭痛、発熱、悪心、羞明などで発症し、その後回復する例もあるが、髄膜炎に進展し、項部硬直、痙攣、精神症状などが認められる例もある。致死率は20～30%に上り、生存者の30～40%では神経学的後遺症を残すとされている。

## 検査所見

検体：血液、髄液  
 分離・同定による病原体の検出  
 PCR法による病原体の遺伝子の検出  
 検体：血清、髄液  
 IgM抗体の検出  
 検体：血清  
 中和試験による抗体の検出 (ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇)

## 病原体

フラビウイルス科フラビウイルス属ダニ媒介脳炎ウイルス (tick-borne encephalitis virus)

## 感染経路

自然界では、マダニと齧歯類との間に感染環が維持されている。マダニ間は経卵伝播もありうる。人への感染は主にマダニの刺咬であるが、ヤギの乳の飲用によることもある。

## 潜伏期

7～14日

## 行政対応

診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

## 拡大防止

汚染地域の森林に立ち入らないようにする。茂みなどマダニの生息する場所に入る場合は肌の露出を避ける。流行地でのヤギの乳は熱してから飲むようにする。  
 予防のためのワクチンや、曝露後発症予防のためのグロブリンも開発されているが、本邦では未承認。

## 治療方針

有効な特異的抗ウイルス剤は開発されていないので、症状に応じた対症療法が中心となる。